

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2026年8月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 11
4 対日動向	・ ・ ・ 13
5 南シナ海動向	・ ・ ・ 21
6 軍事交流	・ ・ ・ 22
参考文献	・ ・ ・ 25

中国軍事動向月報：2026 年 8 月

2026. 9. 4

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全 般

8 月は訓練最盛期に入り、各軍で着上陸演習や実弾演習が多く確認された。

海南島東坡着上陸訓練場では海軍揚陸艦に加え、少なくとも 14 隻の民間船舶が参加する大規模な着上陸訓練が確認された。同訓練では、着上陸部隊が駐屯地から遠方に移動し、複数の海岸や港湾から乗船する等、初動を秘匿し、奇襲的侵攻能力強化を企図したものだった可能性がある。

また、ユーシェン級揚陸艦 4 番艦が総合訓練評価に合格し、正式に作戦序列に編入され、戦備当直に上番できるようになる等、戦力整備も進めている。

6 月から開始された海警による台湾東方海域での法執行パトロールは 8 月も継続した。台湾東方編隊海警船 2 隻は 8 月 17～25 日にかけて日本 EEZ 内で活動した中国海洋調査船「向陽紅 03」を護衛しており、南西諸島南方の日本 EEZ 内で海警船 2 隻が法執行パトロールと称して常駐する状況が常態化しつつある。

軍事交流では、董国防相が 3 月のベトナム、4 月のカンボジア、7 月のタイ、ブルネイに引き続き、東ティモールとインドネシアを訪問した。ASEAN11 ケ国のうち、6 か国を訪問し、各国で南シナ海問題を議題として取り上げ、同問題は当事者国間の二国間交渉で解決すべきとの方向に誘導していると見られる。南シナ海問題で ASEAN が結束して中国に対抗するのを妨害し、フィリピンを孤立させようとする中国の取り組みの一環である可能性がある。

2 各軍等

(1) 全般

○ 高官の解任等

8月28日、第14期全国人民代表大会（以下、全人代）常務委員会第24回会議は以下の罷免決議を採択した¹。

1 張又俠の中華人民共和国中央軍事委員会副主席の職務を罷免

2 劉振立の中華人民共和国中央軍事委員会委員の職務を罷免

また同日、全人代常務委員会は以下の4名の第14期全人代代表からの解任を公告した²。

中央軍委弁公庁軍人代表大会：張又俠、鍾紹軍（元中央軍事委弁公庁主任）

中央軍委統合参謀部軍人代表大会：劉振立（統合参謀部参謀長）

情報支援部隊軍人代表大会：巨乾生（元戦略支援部隊司令官）

注：（）内の職務は筆者が追記

【コメント】

中国国防省は本年1月、張・劉両上將を重大な規律違反などの疑いで調査すると発表していたが、この時点で罷免を公表したのは、調査が終了したと共に10月に開催予定の第20期中央委員会第5回全体会議（5中全会）に向けての準備の一環と思われる。即ち、新たな中央軍事委員会委員の公表の可能性がある一方、反対に中央軍事委員会の存続意義を問い、廃止を検討する一歩となる可能性もあり、5中全会での動向が注目される。

また、鍾紹軍元中央軍事委員会弁公庁主任は浙江省出身で、習近平の浙江省勤務時には浙江省委員会組織部副部長を務めていた。弁公庁主任とは、軍における習近平の秘書的職務であり、軍視察等に随行し、習近平の側近ともいわれていた。このような人物まで解任したことは、所謂反腐敗運動の対象には聖域はない、との習近平の姿勢を示したものと言える。

(2) 国防動員法の改正

国防動員法の改正

- 8月28日、第14期全国人民代表大会常務委員会第24回会議は国防動員法の改正案を可決、2026年10月1日から施行
- 14章82条で構成され、包括的な改正と改善を実施

(資料源：中国軍網20260828http://www.81.cn/yw_208727/16482014.html)

○ 全般

- ◇ 2010年に制定された国防動員法を16年ぶりに改正。章構成は変化していないが、条文が72条から82条と増加し、新たな事象への対応を追加
- ◇ 「党中央」即ち習近平の意向を強く反映
- ◇ 企業、団体、個人の義務等をより具体的に規定

○ 追加された分野

- ◇ 平時から戦時の迅速な移行を追求、そのための事前の統計資料の整備等
- ◇ 民間の先端技術の活用
- ◇ サイバーセキュリティ、データ等の新領域分野での動員能力

⇒ 現代戦の特質を踏まえ、継戦能力の強化や新領域分野での民間先端技術の活用に必要な動員体制及び台湾有事の際の速戦即決のための迅速な有事への移行体制の整備を目指し改正

章毎の変更箇所

章	2010年版から追加された主な事項
総則	○ 平時から戦時への迅速な移行を確実にする ○ 国防動員の情報化・知能化の水準を向上 ○ 先端技術を活用し、新領域分野の動員能力を向上
組織・指導機構とその職権	○ 党中央の集中統一指導下で動員事業の実施
動員計画・実施計画および動員資源の統計調査	
国防に密接に関連する建設事業・重要物資	○ 先進的な民間の規格・技術仕様を優先的に採用
予備役の保持と招集	
戦略物資の備蓄・調達	○ 企業、団体、個人による事前の備蓄強化と動員発令後の動員業務の優先
軍需品の開発・生産・保守整備	○ データ・ソフトウェアの動員
戦時災害の防止・救援	
国防勤務	○ サイバーセキュリティ担当部署の国防勤務
民間資源の徴用・補償	
広報教育	
特別措置	○ 動員発令後の無線通信の統制
法的責任	○ 動員の為の統計資料の提供拒否や遅延、動員に関する偽情報の捏造や流布への指導と罰則 ○ 動員発令後の動員対象人員・物品等への支援の拒否・遅延時の責任者への処分
附則	

(3) 陸軍

第75集團軍某旅団の訓練が多様化

CCTV「軍事報道」20260807 (下の写真共)

- 南部戦区第75集團軍某自動車化合成旅団は伝統的な歩兵訓練から多様な科目の訓練に転換
- この2～3年で市街戦訓練が開始され、その比率が増加
- 海岸部への転地訓練では、完全武装による渡海や水泳訓練が全隊員必須の課目
- 無人装備やヘリボン訓練、RORO船による渡海訓練も導入



- 南部戦区隷下の2コ集團軍の内、その編成と位置から第74集團軍は台湾着上陸任務を、第75集團軍はベトナム・ミャンマー国境対応及び台湾内陸部侵攻を主任務と推定
- 報道された某旅団は「紅軍旅」の軍旗から、雲南省に駐屯する第75集團軍第37轻型合成旅団
- 近年、内陸部の部隊に対しても台湾侵攻をより重視した訓練に移行するよう指示が出されており、同旅団も内陸部侵攻部隊としてRORO船で上陸し、台湾都市制圧訓練を実施している可能性

(4) 海軍

強襲揚陸艦4番艦「湖北」が総合訓練評価に合格

南部戦区海軍微信 20260810 (下の写真共) <https://mp.weixin.qq.com/s/Qj6nkDVz9pwjAfyF5EZjig>

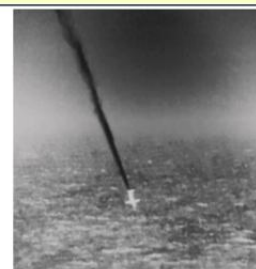
8月10日、南部戦区海軍は以下の通り公表

- 先頃、南部戦区海軍は南シナ海において、強襲揚陸艦「湖北」の総合訓練評価試験を実施
- 対空射撃では、標的機の撃墜に成功。海中に対する防御等の多くの試験を問題なく通過

環球時報 20260811

中国軍事専門家は以下のように論評

- 評価試験は①装備システム性能・技術水準、②隊員の操作能力、③他艦艇・システム等との共同作戦能力、の3つの面から評価
- 総合訓練評価試験合格後は、正式に作戦序列に編入され、戦備当直に上番する
- 湖北艦は2028年8月1日に就役、3番艦までの経験を活用し、約1年という短期間で合格、



- 中国軍では新装備が部隊配備された場合、部隊での習熟訓練を経て、総合評価試験を実施し、合格すれば実戦能力を獲得したと評価され、実運用される
- 湖北艦は水陸両用車とヘリ各1個大隊を同時輸送可能なユーシェン級揚陸艦であり、東部・南部戦区海軍に配備されている各2隻が実運用可能となった。台湾・日本正面と南沙正面での立体的な着上陸能力を着々と向上

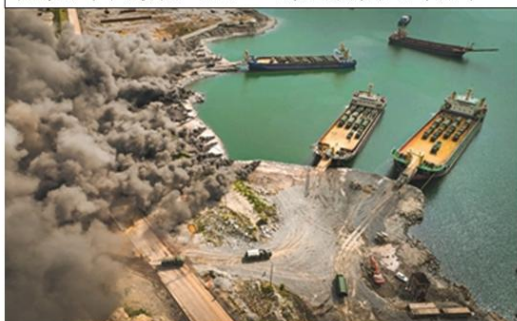
(5) 着上陸訓練

海南島東坡着上陸訓練場での訓練

確認された事象

- 7/21～8/29、訓練場隣接海域で軍事訓練用航行禁止区域を6回設定
- 8/24～26、航行禁止区域内及び付近で民間カーゴ船×14、RORO船×1が活動
- 7/28～8/27の衛星画像で海軍揚陸艦や水陸両用車を確認
 - ◇ 7/28：演習場周辺海域にユーティン2型戦車揚陸艦×1
演習場管理地区に訓練部隊の天幕多数展張
 - ◇ 8/26：演習場海岸に水陸両用車×106
 - ◇ 8/27：演習場周辺海域にユーチャオ級ドック型揚陸艦×1（985：南部戦区海軍）
(注：7/21-8/29にかけて雲の影響がなく確認できた衛星画像は上記の3枚のみ)
- 8/5の解放軍報でカーゴ船を使用した着上陸訓練を報道（場所不明）

煙幕の中、海岸からカーゴ船に乗船する軍用車



(出典：解放軍報20260805)

- 7～8月、東坡着上陸訓練場で南部戦区陸軍が旅団規模の訓練実施の可能性
- 揚陸艦を使用した海軍との協同訓練の他、多数の民間船を使用し第2波以降の兵站部隊等の上陸訓練も実施した可能性
- 8/24-26に訓練した部隊は、駐屯地から遠方に移動し、複数の海岸や港湾から乗船し東坡着上陸訓練場まで渡海。初動を秘匿し、奇襲的侵攻能力強化を企図した可能性

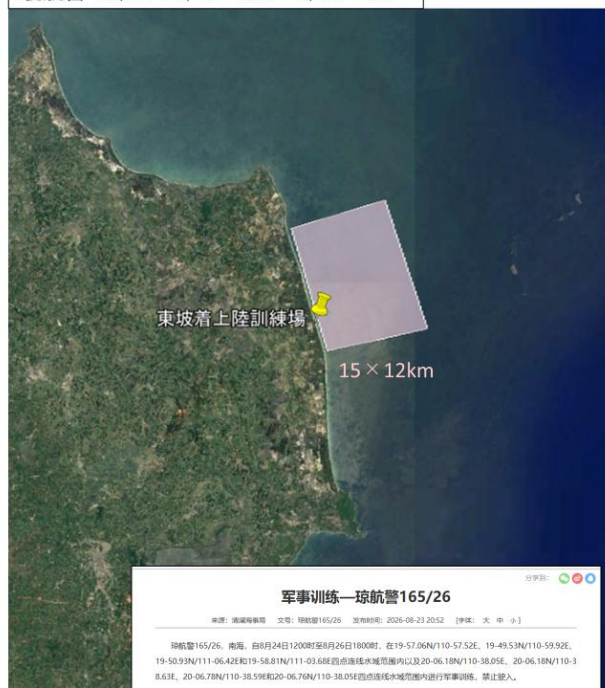
軍事訓練用航行禁止区域

軍事訓練用航行禁止区域設定時期

- 瓊航警128/26：7/21-24
- 瓊航警146/26：8/6-7
- 瓊航警159/26：8/13-15
- 瓊航警160/26：8/12-18
- 瓊航警165/26：8/24-26
- 瓊航警166/26：8/27-29

- 東坡着上陸訓練場は2024年1月以降確認、正面幅6km×縦深5kmと着上陸訓練場としては最大規模の縦深を保有
- 本年航行禁止区域が連続して設定されていることから、上陸から海岸堡設定までの一連の訓練を活発化させている可能性

瓊航警165/26：8/24 1200～8/26 1800



軍事訓練—瓊航警165/26

来源：海軍軍事局 文号：瓊航警165/26 发布日期：2025-08-23 20:52 字体：大 中 小

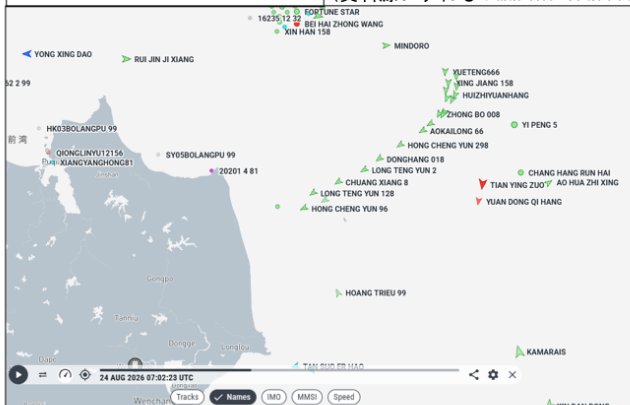
瓊航警165/26 南海。自8月24日1200时至8月26日1800时，在19-57.06N/110-57.52E、19-49.53N/110-59.92E、19-50.93N/111-06.42E和19-58.81N/111-03.68E四点连线水域范围内以及20-06.18N/110-38.05E、20-06.18N/110-38.63E、20-06.78N/110-38.59E和20-06.76N/110-38.05E四点连线水域范围内进行军事训练。禁止驶入。

收藏 打印本页 关闭浏览器 (出典：中国海事局20260823)

民間船舶の動向(8/24-26航禁関連) ①

8月24日15時台(中国時間)

(資料源いずれも: Marine Traffic)



カーゴ船(黄緑の△)×20が航行禁止区域へ航行

8月26日07時台(中国時間)



カーゴ船(黄緑の△と○)×14及びRORO船(青の○)×1が航行禁止区域内・付近で活動

民間船舶の動向(8/24-26航禁関連) ②

8/24-26頃に航行禁止区域付近で活動したカーゴ船×14及びRORO船×1のうち、AISで航跡が確認できた14隻は母港から航行禁止区域までの往復移動間、着上陸訓練場、民間の港湾、海岸付近を航行

⇒ 部隊の訓練・乗船・下船及び船の補給整備等のために立ち寄った可能性

カーゴ船XIN HANG 998の航跡



参考: カーゴ船XIN HANG 9



(出典: Vessel Tracker)

RORO船YONG XING DAOの航跡



RORO船YONG XING DAO



(出典: Marine Traffic)

民間船舶の動向(8/24-26航禁関連) ③

注：表内の数字はAIS信号が確認された8月の日付
14はRORO船、それ以外はカーゴ
6は8/28、汕尾港近くの大石墩港に寄港

船名	地名	汕尾訓練場	江陰港	廈門北港	古雷港	澳角湾海岸	汕尾港	長角頭港	陽江港	溪頭海岸	蓮頭港	水東港	南海鎮海岸	春園海岸	海口港	演習	海口港	幹衝港	汕尾訓練場	汕尾港等
1	XIN HANG 998	1-4											17-23						28	
2	ZHONG BO 008												19-21							30
3	ZHONG FA 299					15						21	20,22,23						28	
4	HAO DA 05						17					21-22			24					29
5	HAO XING 77										18	22-23			25		26		29	
6	ZHEN RAN 168										20									28
7	XING JIANG 158							16				18							29	29
8	XING JIANG 168	3-4		15	16			17			21-22									29
9	XING JIANG 668							16	19-23										28	29
10	LONG TENG YUN 128						16		18-21	22-23									28	28
11	CHUANG XIANG 8	8-11					11			17-23									28	28
12	MAO YUAN XIANG		15				18						21						28	28
13	HUA YUN JIN CHENG								17-21					23			26	27		
14	YONG XING DAO										23				24				28	

- 1, 8, 11のカーゴ船は8月初旬、汕尾訓練場で部隊と事前訓練を実施。更に13のカーゴ船以外は訓練終了後に汕尾へ航行していることから、訓練部隊は近隣に所在する陸軍第74集団軍第125水陸両用合成旅団の可能性
- 部隊は8月中旬に汕尾訓練場近郊の港から乗船または陸路で書村訓練場近郊へ移動し、南海鎮海岸等で訓練の後、海岸から直接または港湾から乗船して航禁区域に渡海し東坡訓練場で着上陸訓練を実施した可能性
- 13のカーゴ船は汕尾には航行せず、主に海南島付近を航行していることから、海南島に所在する陸軍第74集団軍第132合成旅団や74集団軍隷下の兵站支援部隊が乗船した可能性も否定できない。
 - ⇒ 旅団規模で駐屯地から遠方に移動し、複数の海岸・港湾から乗船して渡海する訓練。台湾侵攻着上陸部隊の初動を秘匿し、台湾側に対応のいとまを与えず、奇襲的に侵攻する能力強化を企図した可能性

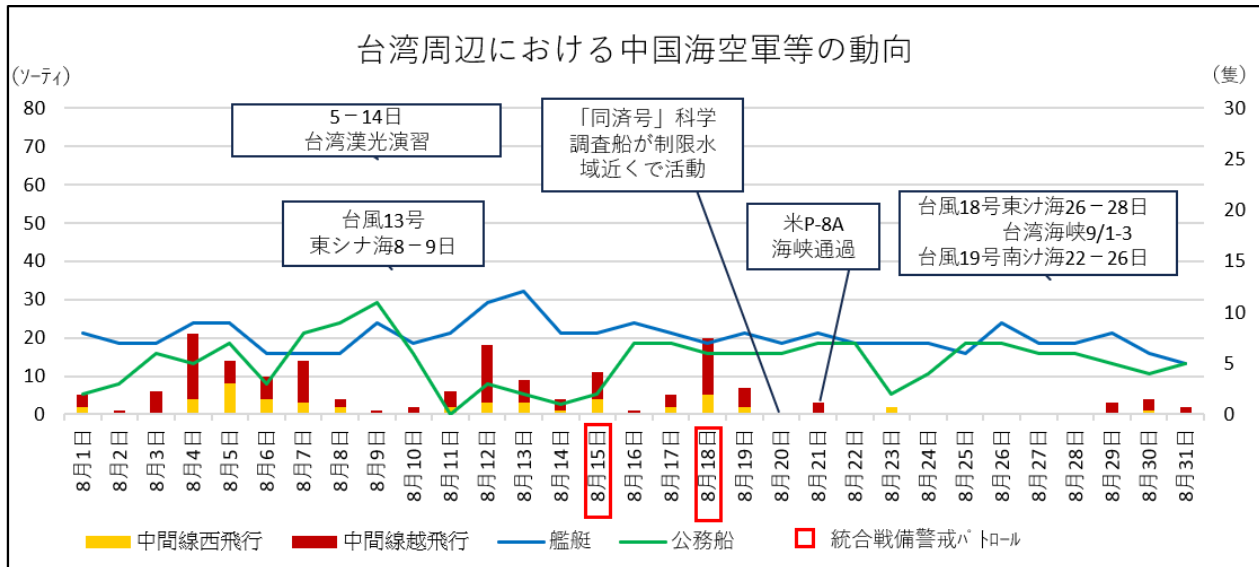
民間船舶の動向(8/24-26航禁関連) ④



3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



（資料源：中華民国国防部 HP を基に作成）

8月は中国軍機延べソーター173（内、中間線超えが延べ125）、中国艦艇延べ237隻、公務船延べ160隻が確認。1日における軍用機最大確認数は21ソーター、最大中間線超え17ソーター、海空統合戦備警戒パトロール2回であった。

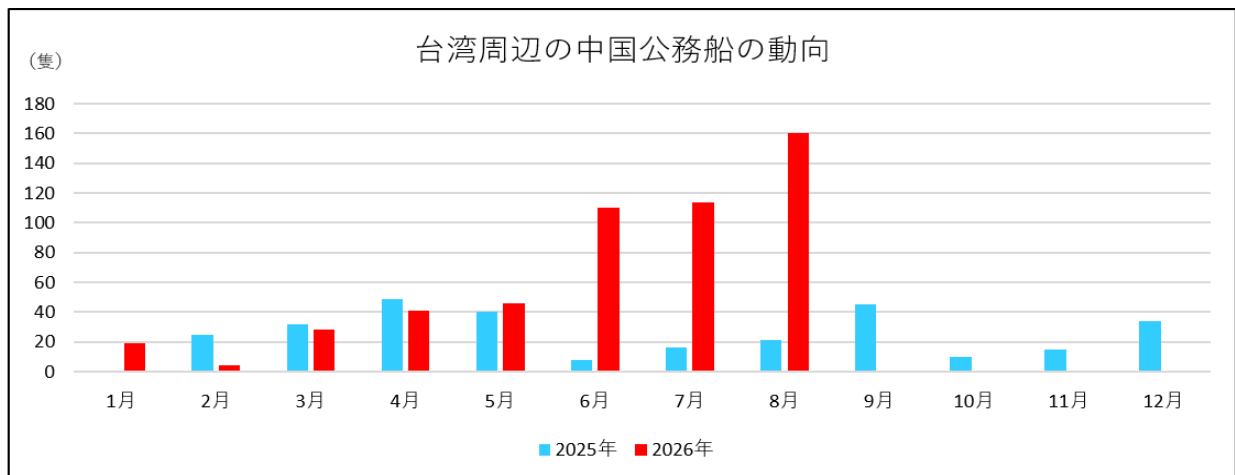
中国軍消息筋によれば、8月21日、米軍P-8A対潜哨戒機が台湾海峡を通過、軍は全行程を監視警戒した³。

【コメント】

下表は台湾周辺の中国公務船の動向を昨年と比較したものである。

海峡内で台風避退した海警船の要因もあるが、科学調査船も含めて公務船の活動を昨年より大幅に増加させている。

6月から開始した海警の台湾東方海域法執行パトロールも継続。8月は6日から海警1306と海警2502の2隻が台湾東岸海域に常駐した。



（２）金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると 8 月の台湾制限水域への入域は 5、13、19、29 日の 4 回⁴で、いずれも 4 隻で約 2 時間であった。

一方、中国海警東海分局報道官は 8 月 29 日、「8 月 29 日、福建海警は金門付近海域において法に基づく定例法執行パトロールを実施」と公表した⁵。

（３）東沙周辺海域での動向

台湾海巡署によると、8 月 18 日 0842、中国海警 3303 と 3107 が東沙制限水域に入域した⁶。

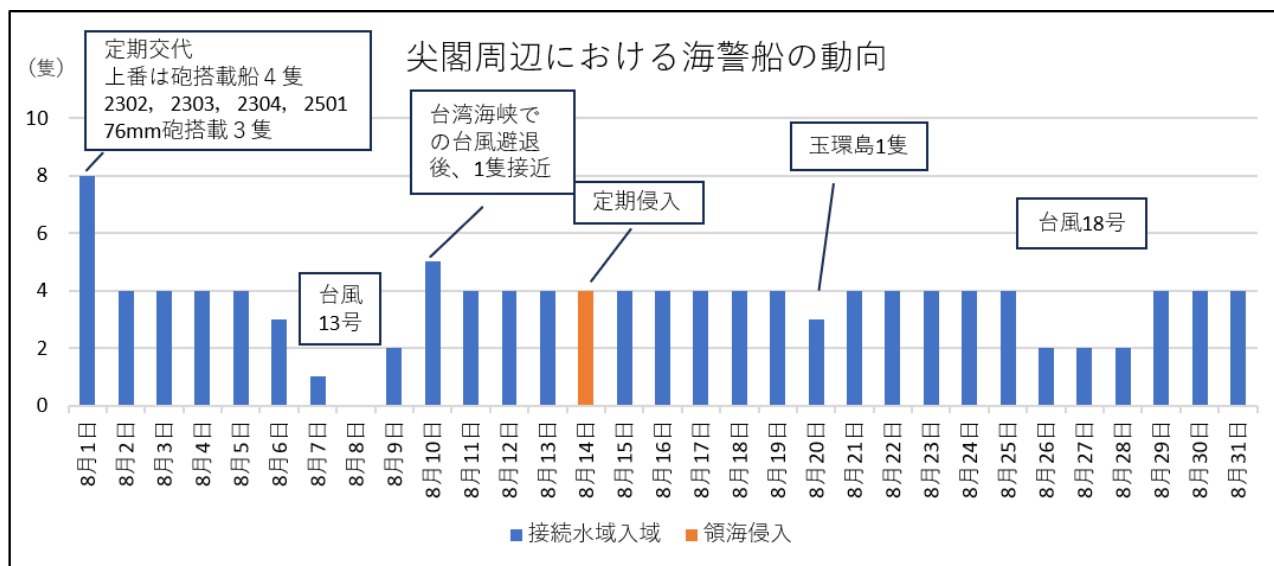
【コメント】

8 月 16 日 1200（中国時間）に東シナ海で中国の禁漁期間が明け、台湾周辺海域へも中国漁船が多数に出港した。台湾海巡署は、8 月 16～18 日に集中取り締まり期間を設定し、越境する中国漁船 8 隻を離脱させた等⁷、対応を強化したが、大きなトラブルは報道されなかった。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



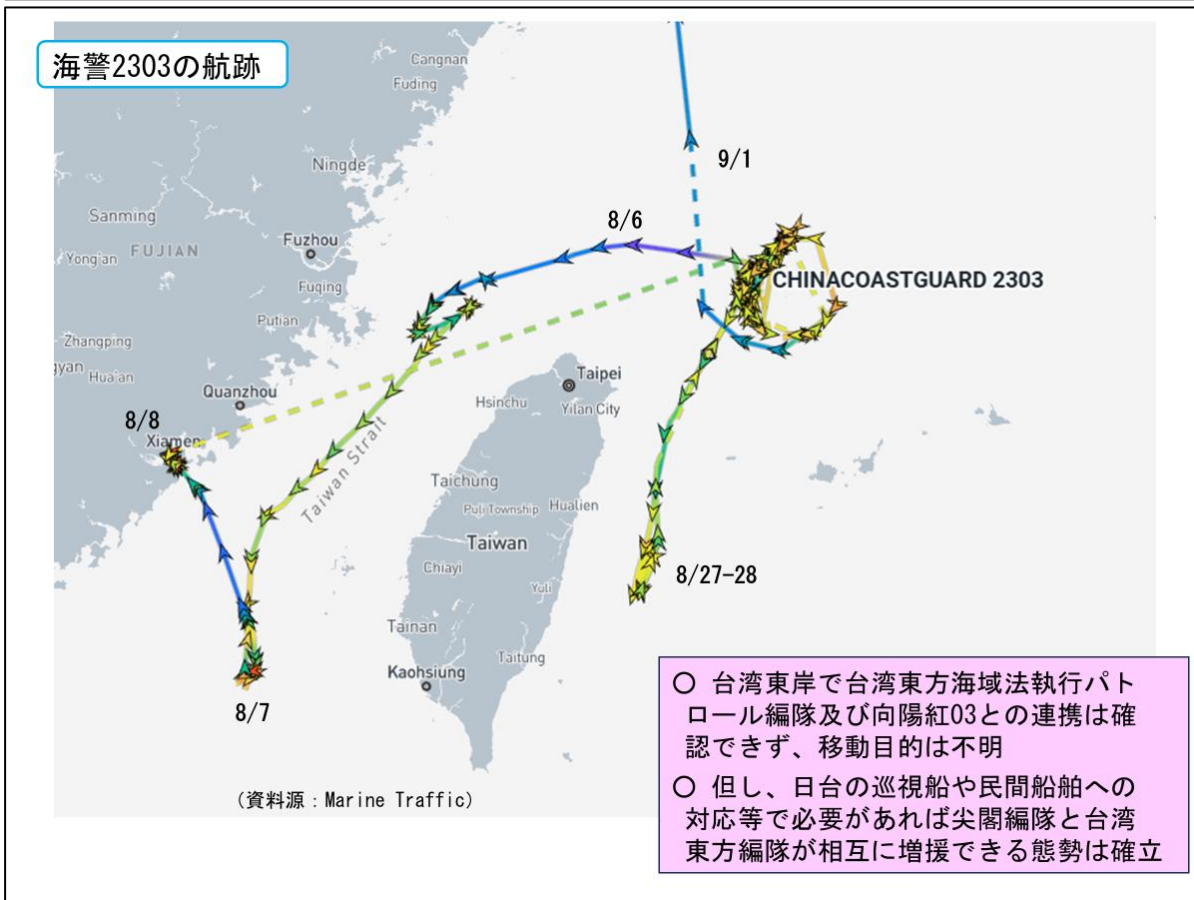
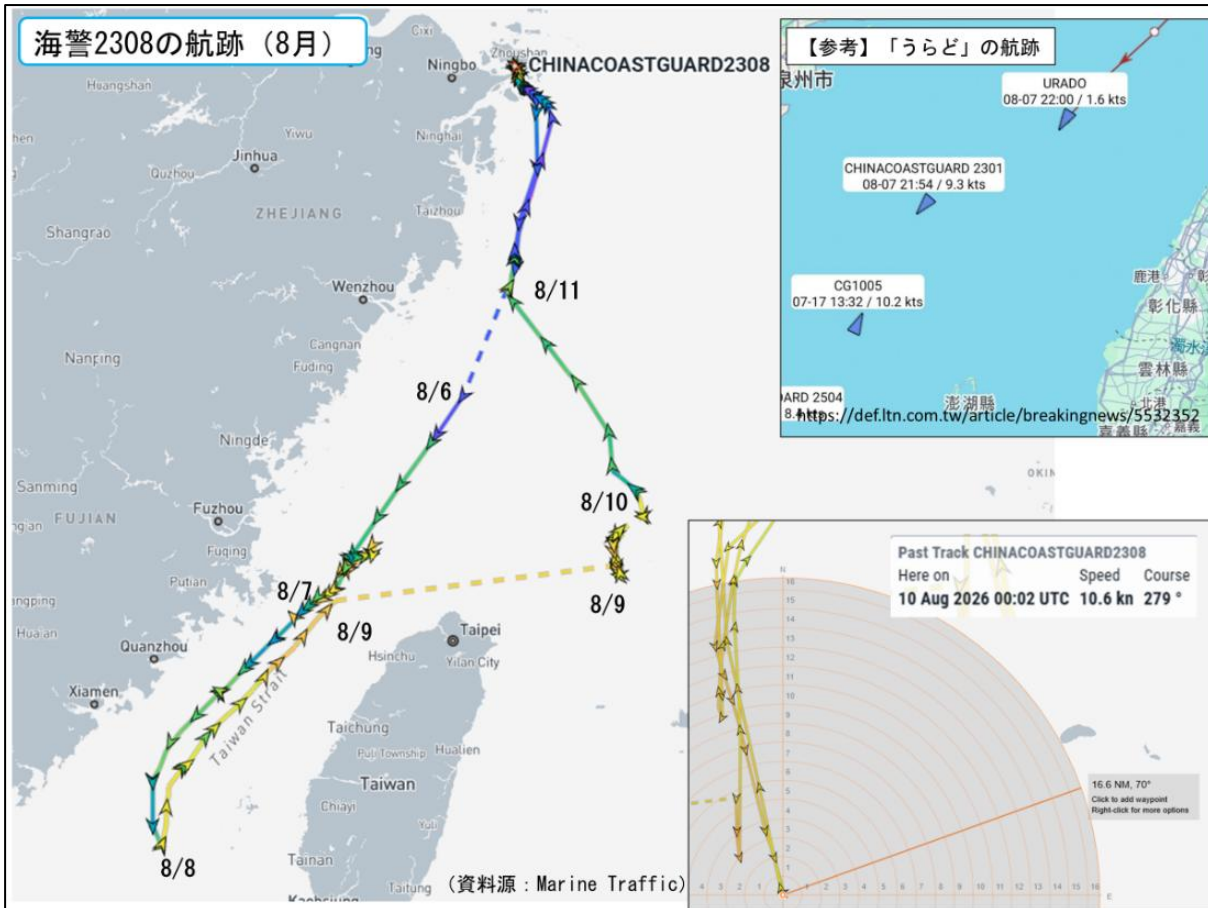
(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

8月も砲搭載船 4 隻による活動を実施した。

定期交代は 1 日、定期侵入 1 回と変化はなかったが、台風避退のため母港の舟山から台湾海峡に移動した海警 2308 が帰港途中に尖閣に接近し、10 日に接続水域に入域したため、5 隻の活動となった。同時期に海保巡視船「うらど」が台湾海峡で台風避退したことから、7 月同様意趣返しと思われる。

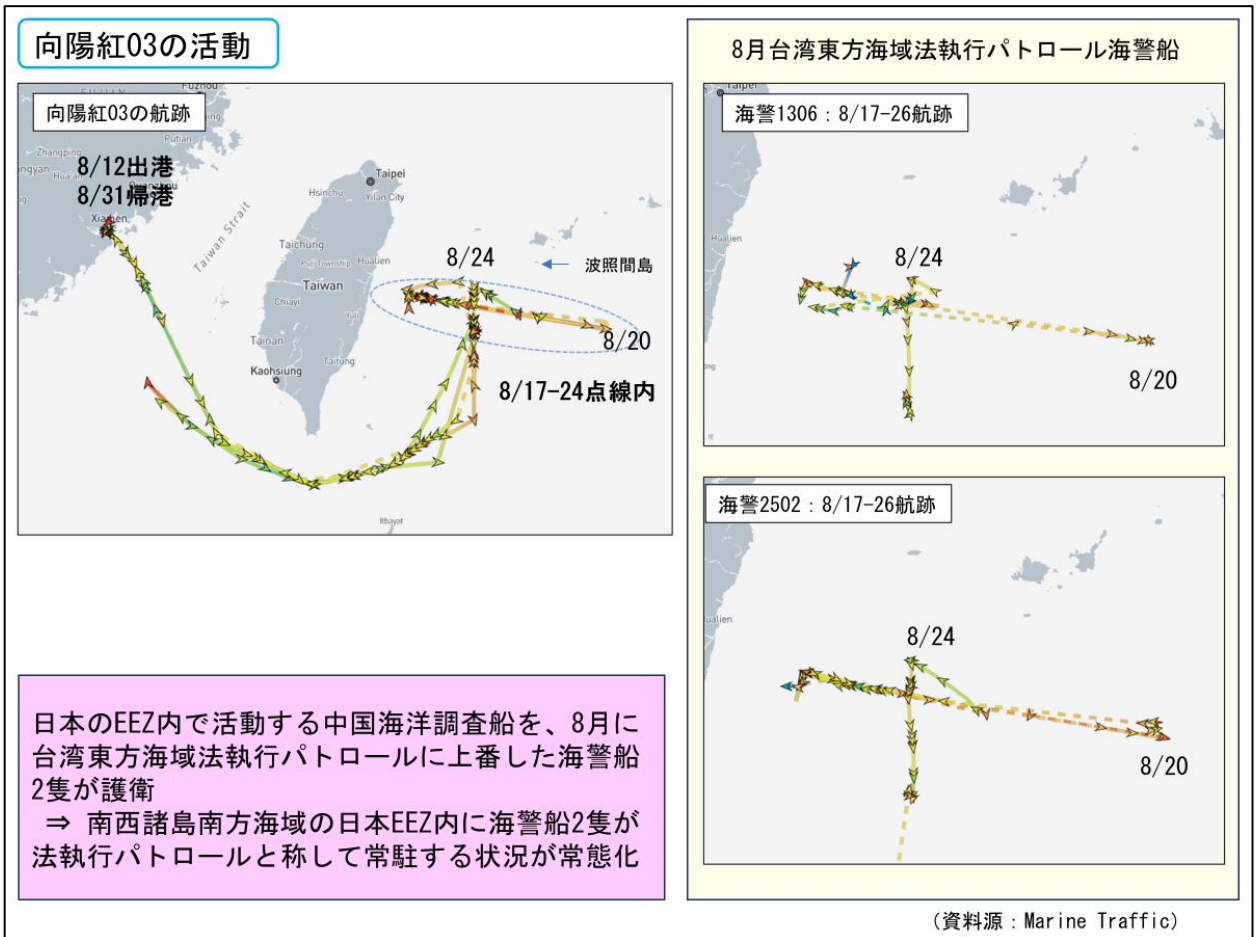
また 26～28 日にかけて海警 2302 と 2304 は台湾海峡に退避したが、海警 2303 は接続水域を出域し、台湾東岸に移動したのち、尖閣接続水域に再入域した。

8 月 16 日 1200 (日本時間 1300)、南シナ海及び東シナ海の一部の海域で 3 か月以上に渡る禁漁期間が終了し、福建 (8000 隻)・広東 (3.2 万隻)・広西・海南省 (2.9 万隻) 等の漁港から多くの漁船が出港⁸したが、特異事象は報道されなかった。



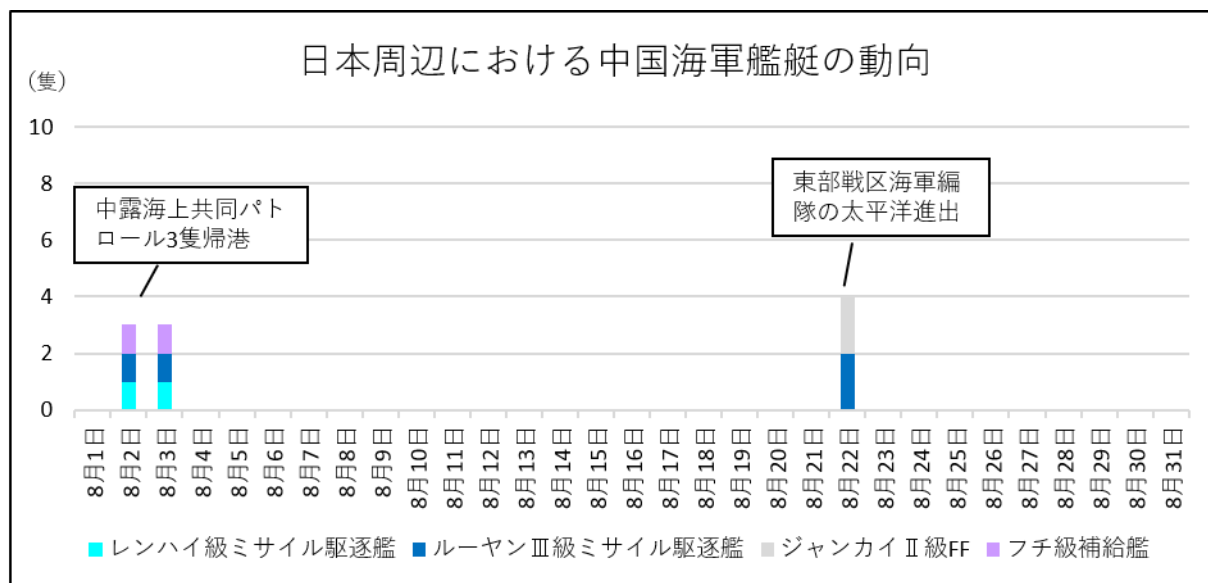
○ 海洋調査船「向陽紅 03」の活動

海上保安庁によれば、中国国務院自然資源部第三海洋研究所所属の海洋調査船「向陽紅 03」が、8月17日に、波照間島の南南東約46海里（約85キロメートル）の我が国排他的経済水域において、船尾からワイヤー様のものを海中へ延ばしている状況を確認。同船は海保の中止要求にもかかわらず25日まで活動を継続した。



(2) 日本周辺での軍の活動状況

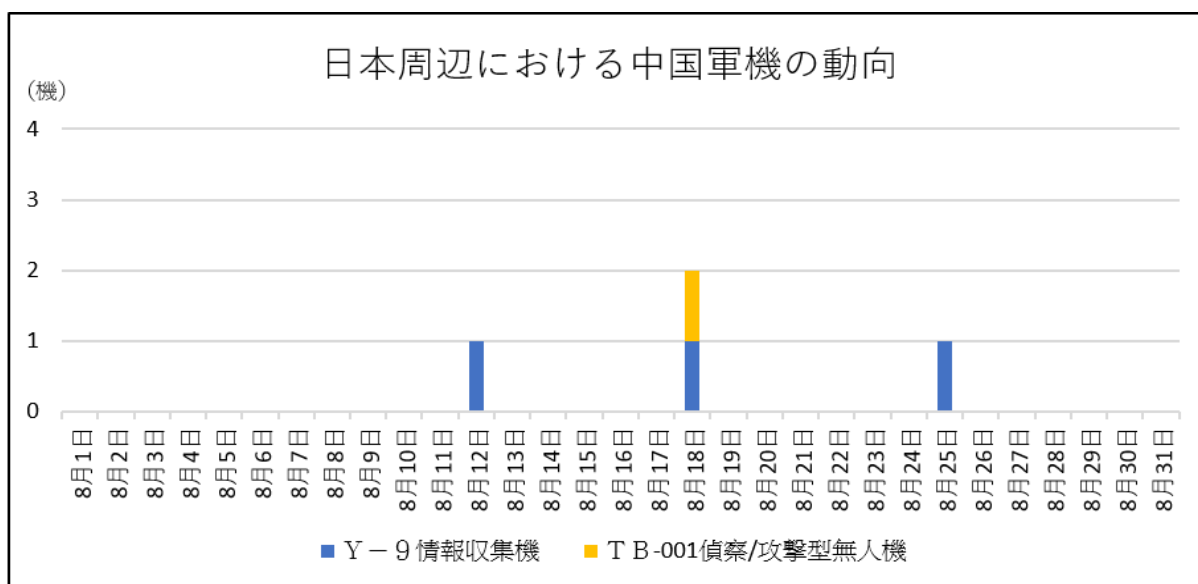
○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 10 隻の活動が確認された

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



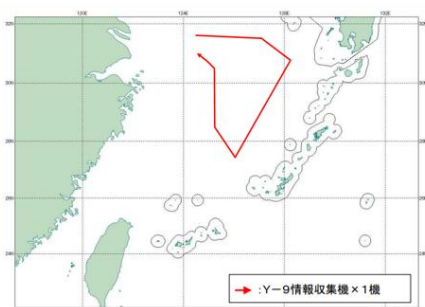
(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ3機が確認された。

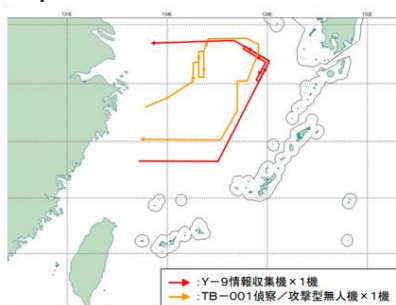
いずれも情報収集機及び偵察機が、下図のように男女群島南方と沖縄本島沖を飛行しており、5～7月もそれぞれ1回ずつ同様の経路で情報収集飛行が確認された。

8月は3回と回数が増加し、同空域における情報収集を強化した。

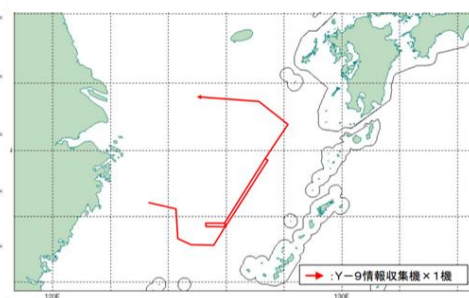
8/12



8/18



8/25



(出典いずれも：防衛省統合幕僚監部 HP)

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 日本「新型軍国主義」の現実的脅威を警戒 解放軍報対日論文シリーズ2（4/8～）

- ②① 「防衛」という看板では拡張の陰謀は隠せない⁹ 黄嘉瑜 葛亜維 軍事科学院 8/7
- ②② 日本は軍事的転換を加速させ、平和憲法から逸脱¹⁰ 謝若初 国際関係学院 8/8
- ②③ 日本の右翼勢力の核保有の野望を断固として阻止¹¹ 超学林・宋岳 中核戦略計画研究総院 8/14
- ②④ 誤った認識を植え付けることは、軍拡や戦争準備への道¹² 于海龍 翟迈雲 中央党校（国家行政学院）習近平新時代中国特色社会主義思想研究センター 8/16
- ②⑤ 「戦犯神社」の祟り、歴史的罪責は隠蔽できない¹³ 項昊宇 中国国際問題研究院アジア太平洋研究所 8/19
- ②⑥ 無人機開発を利用し、攻撃的軍事力を構築¹⁴ 郭一倫 空軍研究院 8/23

○ 日本防衛白書に関する国防部報道官のコメント¹⁵ 国防部網 20260804

日本の新たな防衛白書は、虚偽に満ち、「周辺安全保障危機」を煽り立て、いわゆる「中国の脅威」を誇張している。完全に泥棒が泥棒を捕まえろ、と叫ぶ手口であり、自国の軍事的な制約を解除するための口実である。我々はこれに対し、強烈に不満であり、断固として反対する。

○ 日米比南シナ海共同演習¹⁶ 解放軍報 20260806

7/21～25 に実施された日米比の第 17 回多国間海上協力活動を利用し、日本は専守防衛を突破しようとしている。

○ 日本の頻繁な軍事演習は、危険な拡張の陰謀を浮き彫り¹⁷ 尹航 国防大学聯合作戦学院 解放軍報 20260806

最近の頻繁な日本の共同演習等への参加は、多領域共同運用能力の検証・強化を目的としており「専守防衛」の原則を放棄し、対外的な攻撃能力を備えた軍事力を構築しようとする危険な動き。

○ 国防部定例記者会見（8月7日）¹⁸

◇ 海自のトマホーク試射について

日本は攻撃的兵器の整備を日々加速させており、非常に危険で、周辺国は強く警戒すべき。

○ 国防部定例記者会見（8月14日）¹⁹

◇ 8/15を控え、日本の軍拡の動向について

我々は日本に対し、深く反省し、罪を認めて償い、戦後の国際秩序を厳格に遵守し、再軍備化の危険な動きを停止するよう促す。再び誤った道に踏み出せば、より悲惨な失敗と、より徹底的な報いを招くだけだ。

○ 歴史の罪を否定すれば必ず徹底的な報いを受ける²⁰ 解放軍報 20260815

81 年前、日本は無条件降伏をした。現在、日本の右翼政治家は絶えず歴史の定説を改ざんし、戦後秩序を覆そうとし、新型軍国主義の勢いは蔓延し、アジア太平洋地域と世界の平和と安定への深刻な脅威となっている。

○ 靖国参拝に関する国防部報道官コメント（8 月 15 日）²¹

靖国神社は、日本の軍国主義が引き起こした侵略戦争の精神的支柱と象徴であり、アジア・太平洋諸国の人々の血で両手を汚した戦争犯罪人が祀られている。日本の政治家のこのような行動は、歴史的正義を公然と冒涇し、被害を受けたアジア・太平洋諸国の人々の感情を深く傷つけるものであり、本質的に、侵略の責任を隠蔽・否定しようとするものであり、「世界反ファシズム戦争」の勝利の成果と戦後の国際秩序に挑戦するものだ。

○ 日本の新たな防衛白書は複数の悪どくみが隠されている²² 解放軍報 20260817

高市政権の初の防衛白書は、所謂「周辺安全保障脅威」を繰り返し煽るもので、「新型軍国主義」を推進する宣言書と言えよう

○ 日本の新型軍国主義が勢いを増し脅威となっていることに警戒²³ 解放軍報 20260817

防衛白書が示す日本の動きは、新型軍国主義が危険な兆候ではなく、既に赤裸々な現実的脅威となっていることを証明している。

○ 日本の集中的なミサイル試射は危険な信号²⁴ 解放軍報 20260817

日本は頻繁に共同演習に参加し、多様なミサイル試射を行っており、防衛から攻撃への政策転換する際の資となっている

○ 小泉防衛相の豪印訪問²⁵

日本は豪印との防衛協力を通じ、南太平洋とインド洋における戦略的プレゼンスを拡大。

○ 国防部定例記者会見（8 月 27 日）²⁶

◇ 靖国参拝について

靖国神社には A 級戦犯のみならず、両手を台湾同胞の血に染めた安藤利吉、乃木希典等の戦犯も祀られている。民進党当局は日本に媚び、植民地時代を懐かしみ、敵を父を仰いでおり、軽蔑すべきものである。

◇ 日本防衛省の大規模な改編等について

近年、日本は「再軍備化」を加速させ、明らかに軍事力を増強しており、こうした一連の危険な動向は、第二次世界大戦前に軍国主義者が行った戦争準備や開戦の動きに酷似している。

○ 日本は、遺棄化学兵器処理をこれ以上先延ばしにはできない²⁷ 解放軍報 20260830

中日間の遺棄化学兵器廃棄に関する忘備録では、日本は 2007 年に全ての処理を完了すべきと

されているが、日本の消極的な対応で既に 4 回先延ばしにされ、関連予算も削減されている。

- [日本、宇宙の軍事利用に向けた配備を加速](#)²⁸ 豊松江・王曉艷 航天工程大学太空安全研究センター 解放軍報 20260831

日本は、制度改革、能力構築、システム統合という三本柱の同時並行で、宇宙作戦能力の実戦化と部隊編制に向けた変革を加速させている。

- [日本の形を変えた軍拡、宇宙での軍事能力の発展に警戒](#)²⁹ 解放軍報 20260831

近年の日本の動向は、軍事拡大に対する戦後国際秩序の制約を打ち破り、「宇宙条約」および平和憲法の根本精神に違反するものであり、世界の宇宙環境に甚大な悪影響を及ぼすであろう

- [日本、宇宙からの軍事投射システムの開発を強化](#)³⁰ 解放軍報 20260831

日本は宇宙アクセス技術の開発を加速させるとともに、軍民両用、平時戦時一体の宇宙投射システムの構築を進めている。

【コメント】

日本関連の記事は 23 件であり、終戦記念日もあったことから先月の 19 件からやや増加した。

靖国参拝に関しては、これまでの主張に加え、「両手を台湾同胞の血に染めた戦犯も祀られている」と台湾市民へ訴え、日台の分断を図ろうとした。

5 南シナ海動向

○ 全般

- ◇ 8月26日、南部戦区報道官は、「8月21～25日、南部戦区は海空兵力により南シナ海海域において定例パトロールを実施した。」と公表³¹。

○ スカボロー礁

- ◇ 「スカボロー礁国家級自然保護区管理方法」の公布³²

8月1日、自然資源部、国家林業草原局、中国海警局及び海南省人民政府は合同で「スカボロー礁国家級自然保護区管理方法」を公布した。

スカボロー礁は2025年9月に国家級自然保護区に指定され、今回公布された同方法に基づき、中国はスカボロー礁にて日常的なパトロール制度を確立し、随時各種の違法行為に対して取締りを実施する。

◇ 南部戦区

- ◎ 8月1日、南部戦区は「8月1日、南部戦区はスカボロー礁の領海・領空及び周辺海空域で海空統合演習を実施した。主に、偵察警戒、抑止パトロール、海空管制、協同突撃等の科目を演練し、部隊の海空協同、迅速支援及びシステム能力を検証した。」と公表³³。
- ◎ 8月21日、南部戦区空軍報道官は「比のアイランダー、C-208、PA-31Tの小型機3機が、中国政府の許可なく中国のスカボロー礁上空の領空に不法に侵入した。南部戦区は海空兵力により、法に基づき追跡・監視および音声による警告を行った。」と公表³⁴。

◇ 海警

- ◎ 8月1日、海警局報道官は「8月1日、中国海警はスカボロー礁付近の海域において権利保護法執行管理演習を実施し、主に臨検拿捕、侵入阻止、強制離脱等の法執行行動を演練した」と公表³⁵。
- ◎ 8月30日、中国海警局は、「8月30日、海警はスカボロー礁領海及び周辺区域で法執行パトロールを実施した。」と公表³⁶。

【コメント】

南シナ海での比への威圧は継続。

スカボロー礁においては、「スカボロー礁国家級自然保護区管理方法」を公布し、監視と取締りに関する法整備を行い、中国の実効支配活動が法律に基づいた合法的なものであると一方的に主張する環境を整えた。

6 軍事交流

(1) 共同訓練

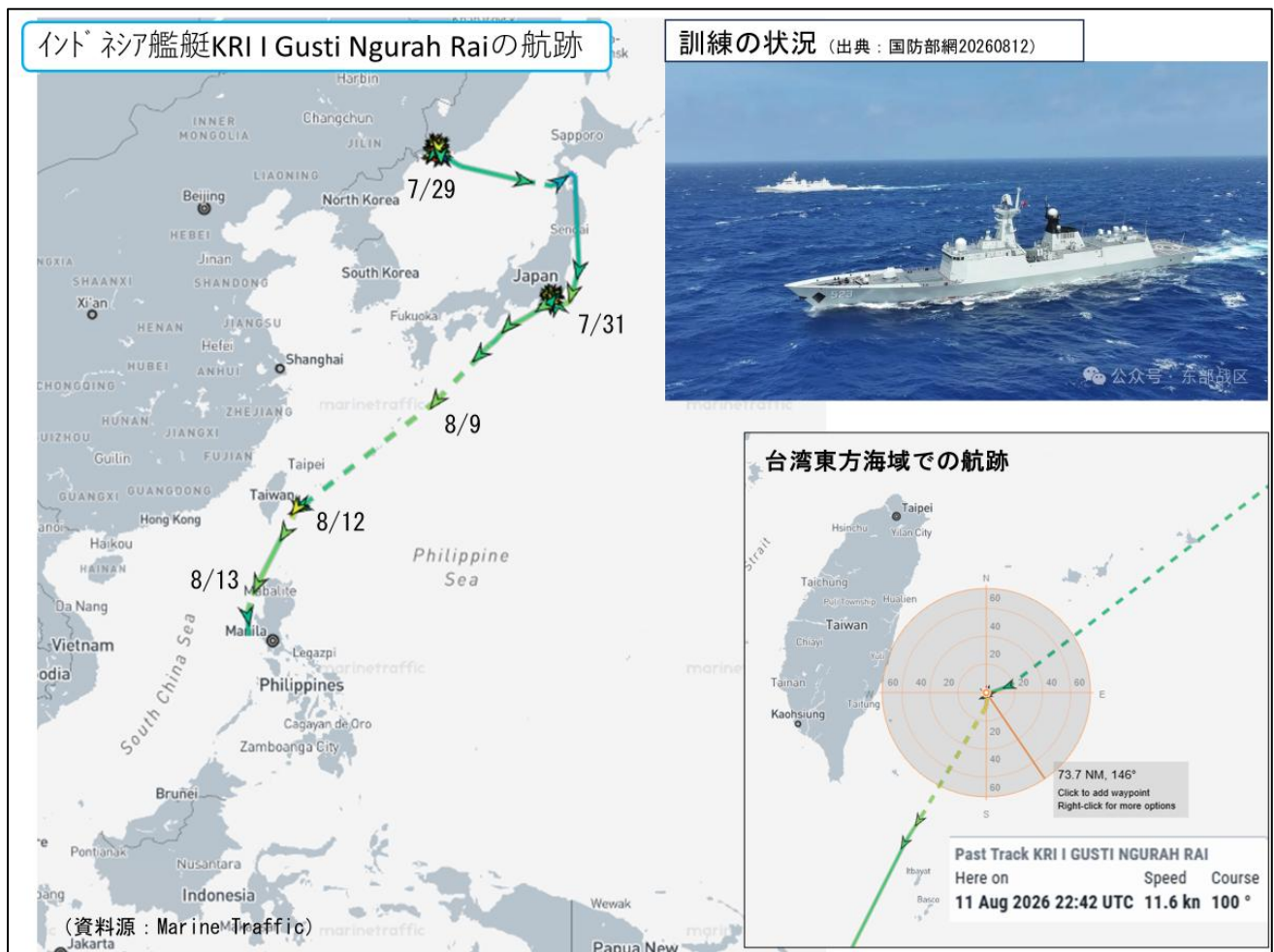
○ 中・インドネシア台湾東方海域通航演練

8月12日、東部戦区は「8月12日午前、中・インドネシア台湾東方海域通航演練が終了。

中国のジャンカイⅡフリゲート『紅河』とインドネシアのフリゲート『イ・グスティ・ングラ・ライ』が台湾東方海域で、海上通信、編隊運動、海上補給等の訓練を実施した。」と公表³⁷。

インドネシア海軍報道官は、「イ・グスティ・ングラ・ライがロシア訪問からの帰途、各国と通過訓練を実施する予定であり、戦闘とは関係がない。他国の海域を通過する際に実施する、各国海軍に共通の慣行」と説明した³⁸。

なお、インドネシアの同フリゲート艦は、8月8日に海自護衛艦「おおなみ」と共同訓練（ガルスアメックス）を実施し、戦術運動、通信訓練等を実施している³⁹。



○ 中・ベラルーシ空挺共同訓練「神鷹-2026」⁴⁰

8月12～24日、中ベラルーシ空挺共同訓練「神鷹-2026」が中国空軍某訓練センターで実施。「神鷹」シリーズとしては4回目。

都市部の対テロ共同作戦をテーマに、偵察・対偵察、制圧・防衛、掃討・確保等を演練。

○ 中・タイ空軍共同訓練「鷹撃-2026」⁴¹

中・タイ空軍共同訓練「鷹撃-2026」が、8月13日までにタイ・ウドーン空軍基地で開始され、20日に終了した。同シリーズとしては9回目の共同訓練。

中国からは、戦闘機（J-10C、J-10S）、早期警戒機、空中給油機、ヘリ、SAM等の装備が参加。共同防空、人道医療救援等の課目の訓練を実施した。

○ 中・エジプト空軍共同訓練「文明の鷹-2026」

8月21日、中・エジプト空軍共同訓練「文明の鷹-2026」に参加する空軍機がエジプトの空軍基地に到着。中国からは戦闘機、空中給油機、特殊支援機、ヘリ等が参加。エジプトまで6000km以上、約9時間を長距離機動（筆者注：パキスタン・カラチ空港を経由）。この間、空中給油機が飛行編隊の給油及び空中指揮任務を遂行。同シリーズとしては2回目。今回は空戦戦術、制空作戦、戦闘搜索等の課目を訓練⁴²。

昨年はJ-10Cが参加したが、本年はJ-16が参加。YU-20AがJ-16に給油を繰り返し、長距離航続能力を検証した⁴³。

(2) 軍事交流

○ 海軍遠海総合実習編隊の活動⁴⁴

8月2日、海軍遠海総合実習編隊である「戚継光」と「崑崙山」がインドネシアのスラバヤ・タンジュンペラックに寄港し、4日間の友好訪問を開始した。

○ 董軍国防相の東ティモール訪問

8月18日、董軍国防相は、東ティモールを訪問し、ホルタ大統領と会見した。

ホルタ大統領は、東ティモールの独立以来続く中国の長年の支持と支援に感謝の意を表し、両軍の実務協力関係の更なる深化に期待を表明した。また、南シナ海問題は当事国間の二国間交渉を通じて解決されるべきであると述べた⁴⁵。

19日には、シャナナ首相と会談した。双方は、両国・両軍の関係、国際・地域情勢、および共通の関心事について踏み込んだ意見交換を行い、両軍関係をより高いレベルへと引き上げていくと表明した⁴⁶。

○ 中・インドネシア外交防衛「2+2」対話メカニズム第2回閣僚会議

8月21日、中国とインドネシアは外交防衛「2+2」対話メカニズム第2回閣僚会議をインドネシアで開催。王毅外相と董軍国防相は、インドネシアのスギヨノ外相およびシャフリ国防相との会合を共同で主宰し、戦略的意思疎通を深めた⁴⁷。

また、董国防相はシャリフ国防相と個別会談も行い、両軍の他分野での実務協力の深化等に合意した⁴⁸。

【コメント】

董国防相は3月にベトナム、4月にカンボジア、7月にタイ、ブルネイ、今月には東ティモールとインドネシアを訪問した。ASEAN加盟国11ヶ国の内、計6か国である。

各国で南シナ海問題を議題として取り上げ、同問題は当事者国間の二国間交渉で解決すべきとの方向に誘導していると見られる。これは南シナ海問題でASEANが結束して中国に対抗するのを妨害し、フィリピンを孤立させようとする中国の取り組みの一環の可能性がある。

【参考文献】

- 1 中国軍網 20260829
http://www.81.cn/szb_223187/szbqxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2026-08-29&paperNumber=03&articleid=985586
- 2 中国軍網 20260829
http://www.81.cn/szb_223187/szbqxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2026-08-29&paperNumber=03&articleid=985581
- 3 環球網 20260821
<https://mil.huanqiu.com/article/4StCincb0Le>
- 4 海洋委員會海巡署 20260805
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168665&ctNode=650&mp=999>
海洋委員會海巡署 20260813
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168744&ctNode=650&mp=999>
海洋委員會海巡署 20260819
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168778&ctNode=650&mp=999>
海洋委員會海巡署 20260829
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168847&ctNode=650&mp=999>
- 5 中国海警局 20260829
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202608/t20260829_3189.html
- 6 海洋委員會海巡署 20260819
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168776&ctNode=650&mp=999>
- 7 海洋委員會海巡署 20260818
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=168772&ctNode=650&mp=999>
- 8 央視網 20260817
<https://news.cctv.com/2026/08/17/ARTIVcvy6BZpVtUABV8D8jLd260816.shtml>
新華網 20260817
<http://fj.news.cn/20260817/3dad6609f93c4f8ead58254221f90f98/c.html>
- 9 解放軍報 20260807
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260807/fa8b711b41fb8f430e3909b8f50d835d.pdf>
- 10 解放軍報 20260808
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260808/24cbd88b0ce05256fc3c67a73a1fb500.pdf>
- 11 解放軍報 20260814
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260814/8e3a6c75cff163121510977d2e55191c.pdf>
- 12 解放軍報 20260816
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260816/29cd8564608554622be8aa51188c66c9.pdf>
- 13 解放軍報 20260819
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260819/ad9fa747f896406f03d537db2cc11e25.pdf>

14 解放軍報 20260823
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260823/bc5f14d0d622919072c2d354fec95dea.pdf>

15 國防部網 20260804
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16477731.html>

16 解放軍報 20260806
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260806/21e0833018507dc0ca6ed548b56993cf.pdf>

17 解放軍報 20260806
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260806/21e0833018507dc0ca6ed548b56993cf.pdf>

18 國防部網 20260807
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16478268.html>

19 國防部網 20260814
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16479349.html>

20 解放軍報 20260815
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260815/52893d155053f6459b65adc8804cfb86.pdf>

21 中國軍網 20260815
http://www.81.cn/yw_208727/16479554.html

22 · 23 · 24 解放軍報 20260817
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260817/213eef87eb776952d7e0779012f4c471.pdf>

25 解放軍報 20260827
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260827/0b3cca530d5d88711a632226a1ad1afd.pdf>

26 國防部網 20260827
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16481712.html>

27 解放軍報 20260830
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260830/8c70f8463f5de9ca2787a66c66a62f7c.pdf>

28 · 29 · 30 解放軍報 20260831
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260831/b56182f540348ef85bdc6c43be7be84d.pdf>

31 中國軍網 20260826
http://www.81.cn/yw_208727/16481379.html

32 新華網 20260801
<https://www.news.cn/politics/20260801/2abea2bd716b4a3f991ccba0ef85fff0/c.html>

33 中國軍網 20260801
http://www.81.cn/yw_208727/16477283.html

34 南部空軍微信 20260821
<https://mp.weixin.qq.com/s/r2CORlFzvc1m62l4lJ8dXA>

35 海警微信 20260801
https://mp.weixin.qq.com/s/Tif8onJaGt2lieaDMdgXlA?scene=1&click_id=1237898453

36 中國海警微信 20260830
<https://mp.weixin.qq.com/s/RVkfFRu8GWFZbT5YoGmjoYA>

- 37 中国軍網 20260812
http://www.81.cn/yw_208727/16479044.html
- 38 ロイター 20260812
<https://jp.reuters.com/world/taiwan/3PF5CI6IVJJRDDPN6RUQWL4MLA-2026-08-12/>
- 39 海上自衛隊 20260810
<https://www.mod.go.jp/msdf/release/202608/20260810.pdf>
- 40 中国軍網 20260825
http://www.81.cn/yw_208727/16481109.html
- 41 中国軍網 20260820
http://www.81.cn/yw_208727/16480460.html
- 42 中国軍網 20260822
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2026-08-22&paperNumber=04&articleid=985118
- 43 環球網 20260824
<https://mil.huanqiu.com/article/4Sv4k01Zclk>
- 44 中国軍網 20260803
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20260803/420b4391d95f9dde20f265542837e9fb.pdf>
- 45 国防部網 20260819
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16480188.html>
- 46 国防部網 20260819
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16480229.html>
- 47 国防部網 20260821
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16480673.html>
- 48 国防部網 20260821
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16480644.html>

中国軍事動向月報 2026年8月

2026年9月4日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。